

形成外科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



形成外科は、身体に生じた欠損や変形などに対し、機能的、形態的に修復し、整容的にも満足できるようにすることによって、生活の質“quality of life (QOL)”の向上を目指す、外科系の専門領域の一つです。多くの外科学が病巣部を取りきることを主目的としているのに対して、形成外科学は、創造する外科学という点が大きな特徴です。

これまで浜松医科大学には形成外科はありませんでしたが、2007年2月13日から診療を開始しました。当科では形成外科全般にわたる疾患を取り扱っていますが、特に院内各診療科や地域の医療施設とのチーム医療に力を入れています。具体的には、乳房再建やマイクロサージャリーを含めた悪性腫瘍摘出後の再建、熱傷や外傷などで生じた組織欠損の修復手術、唇裂・口蓋裂・多指症・合指症・漏斗胸などの先天性外表奇形の治療、皮膚悪性腫瘍の治療などであり、形成外科で扱う疾患のほとんど全てを幅広く行っている点、都市部の病院にはない利点があります。またレーザーを使ったシミなどの治療や脱毛など美容医学にも対処しています。

形成外科という科は、全ての病院に必要ではありませんが、規模の大きな病院や手術を多く行っている病院には必ず必要です。形成外科にしかできないことがたくさんあります。しかし静岡県においては、形成外科を専門とする医師が非常に少なく、これを育成することは急務です。

このプログラムは、静岡県内の浜松医科大学関連病院および主要研修病院によって、形成外科専門医を養成するために作成されました。是非とも、積極的な応募を期待しています。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部附属病院形成外科 病院教授 深水 秀一

2 目的

初期臨床研修を終えた医師を対象とし、日本形成外科学会専門医の取得を目指すとともに、研修環境の充実した県西部地区・浜松医科大学関連病院などの複数の病院を経験することで、外傷治療、再建、美容医療などについて専門的な知識と診療技術を持ち、これらの領域に対して適切に対応できる質の高い領域専門医の養成を目指します。

3 目標

◎目標症例（日本形成外科学会指定の項目全ての経験を目指す）

- | | |
|------------------------|------------------|
| ①新鮮熱傷（全身管理を要する非手術例を含む） | ②顔面骨骨折及び顔面軟部組織損傷 |
| ③唇裂・口蓋裂 | ④手、足の先天異常、外傷 |
| ⑤その他の先天異常 | ⑥母斑、血管腫、良性腫瘍 |
| ⑦悪性腫瘍およびそれに関連する再建 | ⑧瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド |
| ⑨褥瘡、難治性潰瘍 | ⑩美容外科 |
| ⑪その他 | |

領域専門医取得には、上記11分野のうち8分野以上を術者として経験する必要があります。これらの症例を経験するだけでなく、積極的な学会発表や論文作成まで行えるように指導します。

2017年からは、領域専門医取得後、各関連分野学会（日本手外科学会、日本美容外科学会、日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本熱傷学会、皮膚腫瘍分野）の分野指導医資格を複数有するものに対して形成外科領域指導医資格が認定される。

4 特徴

- ① 本プログラムの研修期間は60ヶ月であるが、期間中、県内の認定施設や教育関連施設での研修、国内留学が可能である。また県内教育関連施設以外での研修も相談により可能である。（その場合、領域専門医取得までの年数が伸びる。）2016年度実績（浜松医療センター形成外科1名、浜松赤十字病院形成外科1名、磐田市立病院形成外科1名、市立島田市民病院1名、静岡市立病院形成外科1名、藤枝市立病院形成外科1名）
- ② 症例に偏りが少なく、幅広い疾患を経験できる。
- ③ 日本形成外科学会領域専門医取得には論文が必要であるが、研修期間中に英文雑誌への投稿を目標とし、指導を行う。
- ④ 毎週定期的に病棟カンファレンス、手術カンファレンス、術後カンファレンス、病理組織検討会を行っている。
- ⑤ 研修開始年より、積極的に手術を経験させる。

5 研修カリキュラム

- ◎ 研修における一般目標
 - ・ 形成外科では、頭蓋顎顔面から四肢に至る、全身の主として体表の先天異常や後天性疾患に対して、局所の外科治療のみならず、患者や家族の心理的・精神的側面から援助できる医師の養成を目指している。そのため、患者の全身管理が出来ること、患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立することを必要としている。
 - ・ 医療チームの構成員としての役割を理解し、他科と協力して治療にあたる。
 - ・ 形成外科・再建外科の疾患では、毎回問題対応型の思考が必要であり、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付ける。
- ◎ 研修内容と到達目標

日本形成外科学会の研修条件に準じて以下の内容を研修します。
原則として1年を単位として、2つ以上の病院をローテートします。

第1年次～4年次まで

 - ① 形成外科で扱う全ての疾患の把握と術前術後の管理・処置
 - ② 各種先天異常における治療内容（手術時期・手術方法）の把握
 - ③ 皮膚・軟部組織の再建の基本概念（植皮・皮弁）と手技の獲得
 - ④ 肥厚性瘢痕とケロイドの発生、経過、予防法、治療の獲得
 - ⑤ 褥瘡と皮膚潰瘍の発生、処置の原則、各種治療法の習得
 - ⑥ 外傷や熱傷に対する適切な応急処置のための基本的な知識と技術の獲得
 - ・ 特に顔面外傷・顔面骨骨折の診断と治療、熱傷の診断と全身管理、手術時期と手術方法、手の外傷の診断と治療の習得を重要視している。

6 研修例

卒後3年目の医師の研修計画（例）

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
～ 4年目	1年目は大学病院で研修 以後は要相談											
5年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○学会資格試験申請						◎資格試験			●認定		

※1年目に「日本形成外科学会」に入会し、資格試験申請時には4年以上学会の会員であることが要件です。

7 研修病院群（順不同）

- ①浜松医科大学医学部附属病院、②浜松医療センター、③市立島田市民病院、④JA 厚生連 遠州病院
- ⑤浜松赤十字病院、⑥藤枝市立総合病院、⑦浜松労災病院、⑧磐田市立総合病院、⑨静岡県立静岡がんセンター、⑩静岡市立静岡病院、⑪静岡県立こども病院

8 研修期間

- ① プログラム全体の研修期間は5年間（60ヶ月）
- ② 1年目から4年目では形成外科領域専門医資格審査に必修である10症例、20症例、300症例の手術（前述11分野）を確実に達成する。
- ③ 領域専門医資格試験受験には1編以上の論文が必要である。当科では研修期間中に、英文雑誌への投稿を指導する。
- ④ 5年目に形成外科学会領域専門医試験を受験する。
- ⑤ さらに修了後、医学博士の学位取得、関連学会の領域専門医（指導医）資格取得（日本熱傷学会、日本創傷外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本手の外科学会など）、さらに日本形成外科学会領域指導医への道が開かれている。